

海外出張報告書

2013年 3月15日提出

氏名	青島 圭佑
所属	人獣共通感染症リサーチセンター 分子病態診断部門
学年	博士課程 2 年
出張先	米国カリフォルニア大学デービス校及びコーネル大学
出張期間	2013 年 3 月 3 日～ 2013 年 3 月 10 日
目的	両大学における診断施設、動物病院およびシェルター見学

活動内容

この度リーディングプログラムにより米国カリフォルニア大学デービス校及びコーネル大学を訪問させて頂きました。飛行機のトラブルが続く波瀾万丈な行程ではありましたが、各大学での診断ラボ・病院等の実際、更には米国の風土・生活の実際まで学ぶことができた事は今後の進路を考える上でも非常に有益なものとなりました。

【カリフォルニア大学デービス校 (UCD)】

成田からサンフランシスコへの飛行機が遅れ、その後の乗り継ぎに失敗するというアクシデントに見舞われながらもフリーウェイを爆走するシャトルバスに翻弄されることおよそ1時間半、なんとかデービスまでたどり着きました。到着した当日は心地良い気候の中、桜が咲き誇る美しい町並みを散策しました。翌日は UCD に所属するシェルターメディシンの専門家である田中亜紀先生とお会いし、デービスから車でおよそ 40 分の距離にあるローズビルへ赴き、PLACER SPCA (Society for the Prevention of Cruelty to Animals) というシェルターを訪れました。この施設では保護された動物に対する徹底した群管理、動物達の譲渡成立を高める試み、業務に従事するボランティアの人達の多さに深く感銘を受けました。シェルターメディシンと呼ばれるシェルターにおける群管理は感染症蔓延の防止、動物福祉の向上に重要な分野であるとともに、東日本大震災のような災害が再び起こった時には必要になる分野であるはずです。何度も災害に見舞われながらも主たる改善が成されていないが我が国の現状ですが、いつ訪れるかわからずともいつかは訪れる「次」に備えるシステム・設備・人材を作り上げることが必要であると思いました。見学を通してハード面ではそれほど日本と米国で違いはないと感じたので、課題はソ



フト面を如何に改善していくかということになると思います。



続いて、UCD に戻り、整形外科学教室の研究室及び運動能力研究所を見学しました。研究室の広さ、充実した設備・施設、こちらではハード面の充実さが印象的でした。馬に加えて犬の運動の研究も行っているようですが、馬の運動能力の研究は研究費獲得が比較

的容易であり研究が進んでいます。犬においては研究費獲得が難しく、思うように研究が進まないのが現状のようです。そもそも犬の運動能力研究は臨床や商業に直接結びつく応用性が高くないことが要因であるようです。実験の様子を見られればとも思いましたが、残念なことに訪問時には実験は行われていませんでした。

デービス滞在 3 日目。UCD の診断ラボおよび動物病院を見学しました。診断ラボは病理診断、毒性検査、微生物検査等を迅速に診断する施設であり、時には法医学的サンプルやヒトサンプルも診断することがあるとのことでした。このような大規模な施設は大量の中毒死や感染症のアウトブレイクが起きた際に、迅速かつ正確な診断を可能にしています。わが国にも食品安全、感染症制御、環境保護の観点からもこのような施設が必要なのかもしれません。



【コーネル大学】

UCD での見学を終えた翌日、サクラメント→サンフランシスコ→ニューアーク→イサカという 3 回の乗り継ぎを含む経路でコーネル大学のあるイサカを目指しました。ところがここでもトラブルが発生。ニューアークまでは無事に辿りつけたものの、イサカへの飛行機が機体トラブルで引き返し、そのまま欠航に。結局その日はニューアークに宿泊し、翌日イサカへ向かうことになりました。コーネル大学で会議がある先生方はレンタカーで一足先にイサカへ、残りはシャトルバスにてイサカ空港へ向いました。およそ 5 時間バスに揺られたのちたどり着いたイサカ。デービスとは打って変わって気温は低く、天候もあまり良くなりこれから続くトラブルをまるで予感しているようでした。翌日、コーネル大学において石塚先生と帯広畜産大学の川本先生の講義を聴講したのち、その週の病理解



剖の症例を紹介する Pathology Rounds を見学。その後、動物病院と診断ラボを見学しました。Pathology Rounds は学部時代の授業でその存在は知っており、実際にその場に参加できたことは非常に嬉しいことでした。活発なディスカッションが繰り広げられながらも、時にはジョークを交えてリラックスする様子はなかなか日本にはない風景だと思います。熱くなる時は燃え上がるように熱くなり、時にはワンクッション置いて空気を和らげることも効率的なディスカッションには必要なのだと思います。

コーネル大学の見学は非常に有意義なものでありましたが、わずか 1 日しか時間がなかったため、もう少し見て回りたいかった、というのが正直なところです。もちろん飛行機のトラブルによる致し方ない理由ではありますが、次回また機会があればコーネル大学を再訪問したいと考えています。



さて、コーネル大学での見学も終わった後は日本に帰るだけ。ここまでトラブル続きだったので、帰りも順調に行くのかという不安は皆にあったと思うのですが……。

AIRLINE	FLT	ARRIVING FROM	TIME	REMARK	CLM
DELTA	4426	Philadelphia	11:00A	ON TIME	1
DELTA	4344	Philadelphia	1:33P	ON TIME	1
DELTA	3761	Detroit	2:39P	ON TIME	1
DELTA	4142	Philadelphia	3:55P	ON TIME	1
DELTA	3592	Newark	4:14P	ON TIME	1
DELTA	4094	Detroit	6:43P	ON TIME	1
DELTA	3788	Philadelphia	7:03P	ON TIME	1
AIRLINE	FLT	DEPARTING TO	TIME	REMARK	GATE
DELTA	4829	Newark	6:09A	CANCELLED	5
DELTA	3837	Detroit	6:24A	ON TIME	1
DELTA	3905	Philadelphia	9:15A	ON TIME	2
DELTA	4826	Newark	9:30A	ON TIME	5
DELTA	4426	Philadelphia	11:30A	ON TIME	4
DELTA	4344	Philadelphia	2:01P	ON TIME	4
DELTA	4142	Philadelphia	4:18P	ON TIME	4

fy morning flight congestion between 6:00AM and 6:30AM, please
Saturday, March 9, 2013 4:56 AM

案の定、イサカ→ニューアークの便が不可解な理由により欠航。帰国できるか怪しい雰囲気になりましたが、イサカ→JFK→成田という経路でなんとか帰ることができました。イサカ→JFK 間はタクシーで 5 時間。運転手さんが 74 歳のおじいさんで、とても良い人

ではありましたが、ニューヨークの街中では何度か事故になりそうな場面もあり、時間にも追われてなかなかスリリングな帰り道となりました。

今回の研修は私にとって初めての海外渡航ということもあり、非常に有意義なものでした。大学訪問や街並みの散策など楽しいこと・面白いこともあれば、多くのトラブルに巻き込まれて大変なこともありました。ただ、どちらも全く初めての経験であり、実験室の中で閉じこもって研究だけしては絶対に体験することができないものです。このような貴重な経験を与えて下さり、さらにトラブルが続く中、引率してくださいました、石塚先生、滝口先生、堀内先生、中山先生、上平さん、大坪さん、そして帯広畜産大学の川本先生、堀内先生に深く感謝致します。本当にありがとうございました。